

高知江の口特別支援学校高知大学医学部附属病院分校

令和2年度研究テーマ

「ICTを活用した『主体的・対話的で深い学び』の研究

～チェックシートと学びのシートの活用を通して～」（2年次）

1 はじめに

本分校では、病院内にある学校として児童生徒の病状と治療、心理面、体力面等に配慮しながら、一人一人に適切な支援と学習保障及び円滑な復学を目指して、様々な研究に取り組んできた。

振り返ると、平成28年度から高知大学医学部附属病院とICT環境の整備を進め、平成29年度から2年間はICTの活用方法を学び、ICTを効果的に活用するための実践研究を行ってきた。その研究と合わせて、平成30年度からは、次期学習指導要領を受けて、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを始めるために、従来の振り返りシートを見直し、教師の視点からの授業評価シートとして、評価の観点を明確にした「チェックシート」を作成した。また、昨年度は、その授業づくりをより具体的に進めるために、「チェックシート」の評価項目と連動した児童生徒の授業評価シートとして、「学びのシート」を新たに追加した。そして、これらの授業評価シートを活用して、「主体的・対話的で深い学び」と「ICTの活用」の観点を意識した授業づくりができることを目的として取組を進めた。しかしながら昨年度は、研究の柱となる研究授業の実施回数が分校全体を通して1回に留まったことから（自己評価授業は3教科で実施できた）、十分に研究の成果と課題を考察するには至らなかった。その中で昨年度は、2つの授業評価シートについては、評価の項目を連動させて作成したことから、児童生徒の評価と教師の評価とを比較できるツールとなったことを確認し、今後もこの授業評価シートを活用した授業づくりをさらに進める必要があると考えた。したがって、今年度は、昨年度の研究テーマと目的、研究方法を継続し、研究授業や自己評価授業および研究協議を重ねながら研究を行い、授業改善に取り組んでいくこととした。

加えて、慣れない入院生活の中で治療を行う児童生徒一人一人に適切な支援を行うために、今年度も児童生徒の実態把握につながる病状や治療についての知識、入院生活を支える心理面への支援等について、病院関係者を講師とする研修会を実施していくこととした。

2 研究仮説と研究方法

本テーマの2年次の取組として、昨年度の取組を参考とし、以下のように設定する。

（1）研究仮説

「チェックシート」と「学びのシート」を活用することで、授業者は評価の観点を意識した授業づくりができる。また、児童生徒と授業者の評価や評価のずれなど、評価結果を授業改善につなげることで、授業において「主体的・対話的で深い学び」を実現できる。

（2）研究方法

- ・児童生徒の日々の健康状態や学習状況、支援の在り方を記録する。
- ・教師用の「チェックシート」の再検討、修正を行う。

- ・児童生徒用の「学びのシート」の検討、修正を行う。
- ・学習指導略案の様式の検討を行う。
- ・日高特別支援学校の学習過程分析表を参考とし、本分校の様式の検討を行う。
- ・授業評価シートを使用した研究授業、研究協議を全員、年1回以上行う。
- ・授業評価シートを使用した自己評価授業(研究授業前2時間と研究授業後1時間)を行う。
- ・ICT支援員を講師としたICTを活用した実践研究を行う。
- ・月1回、研究日を設定し、本研究内容の協議と進捗確認を行う。
- ・児童生徒の病状の理解のため、文献研究や医療関係者等を招いた校内研修会を実施する。

3 本年度の取組

(1) 研究の流れ

本年度の研究の流れを表1、2に示した。校内研修会は新型コロナウイルス感染症予防対応のため中止としたものがあるが、年度初めの計画として報告する。

表1 研究日の内容

月	日	研修内容
4	13	研究テーマの検討・本年度の研究方法・校内研修会について
5	18	「主体的・対話的で深い学び」について 「チェックシート」「学びのシート」の修正・指導略案様式の検討 文献学習「摂食障害」「神経芽腫」(回覧)
6	29	研究協議(中2数学)・(中1国語)
7	27	〈校内研修会へ振替〉
9	14 28	夏期休業期間の研修報告(教職員のための学校安全 e-ラーニング) 研究協議(中2英語)
10	12	実践集録の目次案の検討
11	5	〈校内研修会へ振替〉
12	21	研究協議(小5外国語)・(中2英語) 実践集録の目次の検討、今後の予定(実践集録の原稿の進め方)
1	18 25	実践集録の目次の修正、原稿の進め方 原稿「はじめに」検討
2	1 10 26	各分担原稿の検討および修正と加筆 ～19 実践集録原稿の再修正 本年度の研究の反省・来年度の研究課題の検討

表2 校内研修会及び校外研修会

〈校内研修会〉		
4月(中止)	「感染予防研修会～感染対策の基本～」	三好紗矢香(感染管理部看護師)
7/27	ICT研修「プログラミング」①	酒井瑞雄(ICT支援員)
9/17	「現代のいじめの特徴について」	中平亜耶(スクールカウンセラー)
11/5	「学齢児の心身症について」	満田直美(高知大学医学部附属病院 小児科)
11/18	ICT研修「プログラミング」②	酒井瑞雄(ICT支援員)
2学期(中止)	「循環器系の疾病について」	
2学期(中止)	「白血病について」	
2学期(中止)	「事例から考える一病気の児童生徒及び保護者の支援について」	
3学期予定	「摂食障害について」(2名参加)	
〈校外研修会〉		
8/7	特別支援教育課程研究集会ー病弱部門	
12/25	特別支援教育実践研究充実事業報告会	
1/27.2/12.3/10	特別支援学校におけるICT活用に関する基礎研修会(3名参加)	

(2)授業評価シートの修正と活用方法

①「チェックシート」と「学びのシート」の修正

今年度(令和2年度)は、昨年度の「チェックシート」と「学びのシート」の各項目を改めて見直し、一部修正を行った。表3・4にその修正箇所(■)を示した。

表3「チェックシート」修正表

令和元(平成31)年度	令和2年度
◆主体的な学び	
A-1 本時の学習目標を分かりやすく説明できたか [児/生①] -2 子どもが見通しをもてる手立てを工夫できたか	修正なし
B 子どもが興味・関心をもてる導入ができたか [児/生②]	修正なし
C-1 予想や仮定を立てることへ導くことができたか。 [児/生③] -2 子どもが疑問や答えに気づく展開ができたか	修正なし
D 子どもからの発言や質問を促すことができたか [児/生④]	修正なし
E ワークシートや板書を工夫することができたか [児/生⑤]	修正なし
F 次の学習へつながらる振り返りができたか	修正なし
◆対話的な学び	
G 自分の考えをもてるような工夫や場面設定ができたか [児/生⑥]	-1 修正なし -2 <u>その根拠・理由の発言を促すことができたか</u>
H 子どもが他者(友だち・教師・先哲の考え方・本を通した作者等)の考え方を理解し、考えを広げることができる手立てができたか [児/生⑦]	子どもが他者(友だち・教員・先哲の考え方・本を通した作者等)の考え方を <u>理解できる</u> 手立てができたか
I 学んだことを言語化できる場面が設定できたか [児/生⑧]	修正なし
◆深い学び	
J 「比較する」「分類する」等、様々な考えを整理するための手立てを示すことができたか [児/生⑨]	<u>自分の考えを深める手立て</u> をすることができたか
K 課題解決を行うための探求する場面を設定できたか [児/生⑩]	修正なし
L 学んだ情報を基に、自分の考えを形成できるように導くことができたか [児/生⑩]	学んだ情報を基に、自分の考えを <u>広げる</u> ように導くことができたか
★ICTを使った授業展開	
M ICTを使うことで題材に興味・関心をもたせることができたか [児/生⑪]	修正なし
N ICTを使うことで課題を分かりやすく捉える手立てができたか [児/生⑫]	修正なし
O ICTを使うことで理解の定着を図ることができたか	修正なし

表4 「学びのシート」修正表

令和元（平成 31）年度	令和 2 年度
◆主体的な学び	
①学習の始めに、今日の学習で何を学ぶか、分かりましたか	修正なし
②学習内容に、興味・関心をもてましたか。	(学習内容→具体的に書いて可)
③－1 疑問をもって取り組むことができましたか	－1 「なぜだろう？」と考えて学習することができましたか (具体的に書いて可)
－2 答えに気づくことができましたか	－2 (答え→具体的に書いて可)
④発言又は質問をすることができましたか	修正なし
⑤ワークシートに書きこんだり、板書を写したりすることができましたか	ワークシート(プリント)に書きこんだり、ノートに書いたりすることができましたか
◆対話的な学び	
⑥自分の考えをもつことができましたか	自分の考えを言う(発表する)ことができたか
⑦－1 友だちの考え方を理解することができましたか	他の人の考え方を理解できましたか
－2 友だちの考え方について、自分の考えと似ているところ、ちがうところに気づきましたか	他の人の考え方について、自分の考えと似ているところ、ちがうところに気づきましたか
⑧学んだことを言葉でまとめることができたか	修正なし
◆深い学び	
⑨いろいろな考え方を知り、自分の考えが広がりましたか	修正なし
⑩－1 学んだ内容について、今までの自分の知っていることと合わせて、 <u>さらに考える</u> ことができたか	学んだ内容について、今までの自分の知っていることと合わせて考えることができたか
－2 この時間に学んだことについて、もっと知りたい、もっとわかりたいと思いましたか	修正なし
★ICTを使った授業展開	
⑪ICTの絵や写真を見て、興味・関心を持つことができたか	(ICT→具体的に書く)
⑫ICTを使うことで、学習が分かりやすくなりましたか	(ICT→具体的に書く)

昨年度の取組では、「学びのシート」の評価基準の文言「できた」「まあまあできた」について、小学生と中学生の受け止め方に違いがあるのではないかという意見がでた。小学生にとっては、「できた」は「よくできた」という意味合いが強く、また「まあまあできた」は小学生には分かりにくいこともあり、改めて考え直し、次のように修正した。(教師側の「チェックシート」の評価の文言も同様にした)

◎できた → (修正後) ◎よくできた

○まあまあできた → (修正後) ○できた

また、「学びのシート」については、教科の特性と学習内容に応じて、必要な場合は文言

の一部変更と加筆を行いながら使用していくことを確認した。

なお、「チェックシート」の項目欄には、引き続き〔児/生①〕〔/生②〕を書き加え、「学びのシート」と連動している項目が分かるようにした。

(…小学生全学年、児…小学生中高学年、生…中学生)

授業評価シートの修正では、以上のように大幅な変更は見られないが、これらのシートを活用する中で、観点の各項目をより連動させて評価できることを期待して取組を進めた。

②「チェックシート」と「学びのシート」の活用方法

授業評価シートの活用については、昨年度と同様に教師自身で独自に設定する自己評価授業と、教師間で参観し合う研究授業で活用する。昨年度は各学期の参観週間を自己評価週間と設定し、自己評価授業を2時間分行うこととしたが、児童生徒の在籍状況が把握できない本分校の特性から参観週間に限定することは難しかった。したがって、今年度は、児童生徒の在籍状況から、各学部で相談しながら実施していくこととした。

(ア) 自己評価授業 (3時間)

- ・研究授業と合わせて計画をし、研究授業の前に2時間、後に1時間を実施する。
- ・「チェックシート」(自己評価授業用)と「学びのシート」を使用する。
- ・実施後は、自身で振り返りを行い、授業改善を行う。

(イ) 研究授業

- ・自己評価授業と合わせて計画しながら実施日を決める。
- ・「チェックシート」(参観授業用)と「学びのシート」を使用する。
- ・教師間で参観し合う。(ビデオ録画での参観も含む)
- ・実施後に研究協議を行い、シートの評価集計表と協議内容をまとめる。

(3) 学習指導略案の修正と学習過程分析表の活用

①学習指導略案の修正

学習の展開において、「学習活動」と「指導上の留意点」の項目の欄に、「主体的、対話的で深い学び」、「ICTの活用」として注目する箇所に印を表記するようにした。表記の仕方は、主体的は、対話的は、深い学びは、ICTはとした。

※学習指導略案の活用例は(4)「取組の実際」に記載

②学習過程分析表の活用

昨年度、日高特別支援学校で使用された「学習過程分析表」を参考にさせていただき、本分校用に評価の項目を変更し活用することとした。これにより、学習活動の中で、「主体的、対話的で深い学び」、「ICTの活用」の各学習観点が学習展開の中でどのように構成されているかが図式化され、視覚的に把握しやすくなると考えた。

※学習過程分析表の活用例は(4)「取組の実際」に記載

(4) 取組の実際

児童生徒の在籍状況をみながら、1学期から研究授業の実施が可能な時期を各学部で検討しながら、授業評価シートを活用した取り組みをしていくことを確認した。以下に、中学部3例、小学部1例、合同学習1例の取組の報告をする。

【実践例1：中学部1年国語】

1) 取組内容

国語の教科では、「主体的・対話的で深い学び」の観点をもとに、各単元の学習計画に合わせて、単元時間内であるべく偏らないように組み立ててきた。特に、各分野(物語文・説明文・詩・古典・文法・言語など)の学習目標を達成できるように、導入、板書(掲示物)、発問、ワークシート、ICTの活用等について、各生徒の実態に合わせた指導方法を探りながら進めてきた。授業評価シートを活用するにあたっては、日頃の実践を振り返り、授業改善へつなげたい。

対象生徒は、読書を好み、休み時間などは寸暇を惜しんで本を読んでいる。何事にもじっくりと考える寡黙なタイプである。関心がある内容や学習内容に様々な疑問がわいてくると、ためらわずに教師に質問することができる。国語では、物語や説明文の内容の読み取りや主題について自分自身の立場に置き換えて考えることができる。その反面、漢字の暗記が苦手であり、ワークシートへの書き込み等でも丁寧さに欠け、無頓着な面もある。

本単元の「言葉の力」の分野では、理解力もあり集中して取り組むことができる。「学びのシート」への記入については、小学6年生の時にすでに6回ほど経験している。

以下に実施した研究授業(6/24)の学習指導略案(表5)と学習過程分析表(表6)を示した。

表5 学習指導略案

① 単元名 学びの扉「質問する」(東京書籍 中学1年)	
② 本時の学習	
(ア) 単元の目標	相手の考えをよりよく理解するために、的確な質問を考える。
(イ) 学習計画	全2時間 第1次…質問する(本時) 第2次…会話が弾む質問をしよう、紹介文を書こう。
(ウ) 本時の目標	質問の内容を考え、質問する目的を知る。
③ 本時の学習の展開	
	学習活動
導入	○始めの挨拶 ① 本時の学習内容を知る。 ・発問：質問するときはどんなときか。
展開	② 発言1(詩織さんの発言)に対する質問を考える。[国] ①意味の分りにくい言葉、説明不足の箇所を探す。 ②具体的な質問を考える。
	③ 発言2(純平さんの発言)に対する質問を考える。[国・対] ①相手の考えがはっきりしないところはないだろうか。 ②なぜそう考えるのか、その理由がはっきりしないところはないだろうか。
	④ 質問の練習をする。[国・対] ・発言3「星について」の発言 ・発言4「外国で暮らしたい」の発言
	⑤ 発言1～4の質問を振り返る。[国] ・発問：質問する目的は何だろう。 ・発問：質問をされる人は、今後、発言をするときには、どういうことを考えて発言するだろうか。 ・発問：「質問する力」をつけるためには、どうすればよいだろうか。
まとめ	⑥ まとめ ・本時に学習したことを振り返る。 ・次時の学習内容を知る。 ○終わりの挨拶
	指導の留意点
	・「質問する」について、なぜ学習するのか疑問を投げかける。 ・単純な質問の場合を想定させる。 ・書き込み式のプリントを活用する。 ・文中の語句説明では、iPadの画像を活用する。[IC] ・本生徒の質問を確認後、詩織さんの2回目の発言を紹介する。 ・発言1への質問は、「分りにくいところへの質問」であることを確認する。 ・本文中の人物の質問の例を取り上げる。 ・①②からの視点を提示する。また、発言1とは質問の視点が違うことを確認する。 ・[国] 他の質問例を紹介し、その質問の内容は自分の考えと同じか違うか、投げかける。 ・発言2への質問は、「理解を深めるための質問」であることを確認する。 ・[国] 本生徒の質問を確認後、他の質問例を紹介し、自分の考えとの比較を促す。 ・例文の「分からない語句はiPadの画像を活用する。[IC]」 ・[国] 様々な質問を振り返り、目的を確認する。 ・相手に分かるように説明をしようとする。それは「分りやすい説明をする力」につながることに気づかせる。また、「質問する力」にもつながることを促す。 ・生活の中で、説明や相手の考えを聞くときの場を想像させる。 ・プリントの「まとめ」欄へ記入した言葉を読みこと、本時の学習の確認をする。 ・実際に校内にいる人に質問することを伝える。
④ 評価規準 分からないところをきく質問と、よりよく理解するための質問を的確に考えている。	

表6 学習過程分析表

学習活動 導入 展開 まとめ	① 本時の学習内容を知る。・発問：質問するときはどんなときか。	◆主体的な学び A-1 本時の学習目標をわかりやすく説明できたか。 -2 子どもが見通しをもてる手立てを工夫できたか。 B 子どもが興味・関心をもてる導入ができたか。 C-1 予想や仮定を立てることへ導くことができたか。 -2 子どもが疑問や答えに気づく展開ができたか。 D 子どもからの発言や質問を促すことができたか。 E ワークシートや板書を工夫することができたか。 F 次の学習へつながる振り返りができたか。
	② 例文1（詩織さんの発言）に対する質問を考える。[互]	◆対話的な学び G-1 自分の考えをもてるような工夫や場面設定ができたか。 -2 自分の考えの根拠理由の発言を促すことができたか。 H 子どもが他者(友だち・教員・先哲の考え方・本を通じた作者等)の考え方を理解することができる手立てができたか。 I 学んだことを言語化できる場面が設定できたか。
	③ 例文2（純平さんの発言）に対する質問を考える。[互・対]	◆深い学び J 自分の考えを深める手立てをすることができたか。 K 課題解決を行うための探求する場面を設定できたか。 L 学んだ情報を基に、自分の考えを広げるように導くことができたか。
	④ 質問の練習をする。[互・対] ・例文3「星について」の発言 ・例文4「外国で暮らしたい」の発言	◆ICTを使った授業展開 M ICTを使うことで題材に興味関心をもたせることができたか。 N ICTを使うことで課題をわかりやすく捉える手立てができたか。 O ICTを使うことで理解の定着を図ることができたか。
	⑤ 発言1から4の質問を振り返る。[図] (文中の語句調べでは、iPadの写真を活用する。)	
	⑥ まとめ 本時に学習したことを振り返る。 次時の学習内容を知る。	

2) 結果と考察

授業実施後の「チェックシート」と「学びのシート」の結果について、生徒と授業者および参観した教師の評価を表7・8に示した。なお、実施した授業は、自己評価授業3時間(6/16.6/22.6/30)、研究授業1時間(6/24)であった。

表7 シートの各評価の比較

項目	6/16		6/22		6/24		6/30		
	生徒	教師	生徒	教師	生徒	授業者 参観教師	生徒	教師	
◆ 主体的な学び									
A-1 本時の学習目標をわかりやすく説明できたか。 -2 子どもが見通しをもてる手立てを工夫できたか。	○	○	○	○	◎	○	△◎◎◎◎	○	○
B 子どもが興味・関心をもてる導入ができたか。	○	○	○	△	○	△	△○○◎◎	◎	○
C-1 予想や仮定を立てることへ導くことができたか。 -2 子どもが疑問や答えに気づく展開ができたか。	△	○	△	△	△	△	△	△	△
D 子どもからの発言や質問を促すことができたか。	◎	◎	◎	◎	○	○	◎◎◎◎◎	◎	◎
E ワークシートや板書を工夫することができたか。	○	○	◎	◎	◎	◎	◎◎◎◎◎	◎	◎
F 次の学習へつながる振り返りができたか。	○	△	○	○	○	○	○○○○◎	○	○
◆ 対話的な学び									
G-1 自分の考えをもてるような工夫や場面設定ができたか。 -2 その(根拠)(理由)の発言を促すことができたか。	◎	○	◎	◎	○	○	◎◎◎◎◎	○	○
H-子どもが他者(友だち・教員・先哲の考え方・本を通じた作者等)の考え方を理解できる手立てができたか。	△	△	○	◎	○	△	○○○○◎	○	○
I 学んだことを言語化できる場面が設定できたか。	△	△	△	△	◎	○	◎◎◎◎◎	△	○
◆ 深い学び									
J 自分の考えを深める手立てをすることができたか。	○	○	○	○	○	△	○○○○◎	○	○
K 課題解決を行うための探求する場面を設定できたか。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
L 学んだ情報を基に、自分の考えを広げるように導くことができたか。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
★ ICTを使った授業展開									
M ICTを使うことで題材に興味関心をもたせることができたか。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
N ICTを使うことで課題をわかりやすく捉える手立てができたか。	◎	◎	○	○	△	△	△○○◎◎	○	○
O ICTを使うことで理解の定着を図ることができたか。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○

[◎よくできた ○できた △もうすこし改善が必要]

表 8 授業者と参観した教師の評価

自己評価授業	
6/16	物語文の第1次。題名の意味と物語の内容を想像することで、題材への興味を促した。生徒は想像を膨らませて予想することができたが、生徒自身の予想と違っていただけで、生徒の評価は△であった。生徒は物語の時代背景に興味をもち、分からない語句等を iPad で意欲的に調べ、自分の生活体験と比較しながら考えることができていた (DGN-◎)。I の項目は時間が足りなくてできておらず、生徒の評価も△となった。
6/22	「言語」分野の学習。題材「分類する」では、「分類」の根拠を生徒自身の言葉で答えることができていた。(生徒G-◎)また、この部分は教師の評価と合わせて「対話的な学び」となっていると考えられる。別の考え方の分類方法にはその観点に気づくことができず、生徒の評価は(H)△であったが、結果として説明を聞いて理解はできていた。また、本時も、I の項目が△と両者でなっていることは、改善しなければならない。
研究授業	
6/24	[授業者] <ul style="list-style-type: none"> ・G-2(△) 生徒は「例題への質問」をじっくりと考えることができており「どちらかにわかることができない」と正直に感じた考えを発言した。教師は、生徒のこの発言の理由を促すことが不十分であった。(生徒○) ・H(△) 他者の考えとの比較では、教師側が他者の意図を詳しく説明するべきであった。 ・J(△) 考える場面は設定できたが、教師が誘導する言葉がけになっていた。(生徒○) ・N(△) iPad の画像の視聴が、2か所の予定が1か所のみとなり情報不足だった。(生徒△)
	[研究協議] <ul style="list-style-type: none"> ・板書の工夫、ホワイトボードの使用—効果的にできていた。 ・ワークシートを効果的に活用して、授業の最後に自分の言葉でまとめるための手立てとすることができていた。 ・発問/一対一の学習形態 一対一の授業であるため、一問一答式の質問の投げ方が多いように思う。 一つ一つの発問が(指導案に)明確に記載されていて、教師側の意図が読み取れた。反面、そのことで生徒の発言が単調なものになっていったかと思う。 生徒の実態に合った思考を深める発問とは? 一対一だからこそ実態に合わせていけると思うので、よりよい発問を考えていけるとよい。 一問一答式について、質問を逆の出し方ではどうか。生徒が得意な内容には、あえてじっくりした質問をすると、そこから深く掘り下げていくことができるのではないかと。発言する、発表する場面を、いつどの場面に組み込んでいくかを考えなければならない。一対一であるからこそ、その生徒に合わせて、ハードルを上げたり下げたりできる。そこから対話的で深い学びを見つけられるのではないかと。 ・本時の目標について 50分の授業の中でどんな力がついたか、このことをしっかりと頭に置くことが必要である。
自己評価授業	
6/30	説明文の第2次。前時に題材への本人の知識とイメージを促すと、多くの発言があった。本時では iPad で題材の画像を詳しく見ることで、より題材に興味をもっていた(生徒B-◎、教師○)。発問に対する発言では、いつものように真面目に考え、自分の考えを発表することができていた(生徒D-◎、教師◎)。また、I の項目が今回も時間の関係でできなかったが、学びのシートの下欄の記入箇所に、学習内容を簡潔に書くことに振り替えることとしたため、教師側の考えでは○と評価した。

自己評価授業と研究授業を合わせた4時間の授業では、「学びのシート」と「チェックシート」には「もう少し改善が必要」という評価がいくつかあった。その部分は、教師側の時間配分ができていなかったことが主な原因の一つと考えられた。実施した4時間の授業の評価規準では、生徒自身の理解はできており、十分習熟できていたため、各授業の本時の目標はほぼ達成できたと評価する。

導入では「主体的な学び」として題材への興味関心をいかにもたせるかに焦点を置いた。「言葉の力」の分野の題材では、「なぜこの学習をするのか」という発問により題材への意識を高めるようにした。生徒は十分に考えることができており(表7A-1生徒6/16○6/22○6/24◎6/30○)、学習の初発の発問として効果があったと考える。また、生徒の発言も積極的にできていた。(表7D生徒の評価はほぼ◎であったことから。)

「対話的な学び」では、教科書の他者の例を紹介することで自分の考えと比較できる

活動を設定した。同時に人物絵と意見を提示し、他者の考えを視覚的にも捉えやすくなるよう板書を工夫した。その結果、生徒の考えを引き出すことができ、対話的な学びの手立てができたと考える。ただし、参観した教師からの指摘があったように、一問一答式の単調な受け答えになっていたことで、より発問の投げかけを工夫しなければならない。また、項目Ⅰ「学んだことを言語化できる場面が設定できたか。」では、時間配分ができていないことが明らかであった。改善点として、ワークシートに本時の学習のまとめを書く活動を組み込んだ。その結果、生徒は時間内に学んだことを言語化して発表することができた(表7Ⅰ6/16.22△→6/24○)。

「深い学び」では、「発問」を計画的に考え、指導略案の学習展開に位置付けた。その結果、場面設定は計画通り実践できた。しかし、結論へ誘導する教師の言葉がけが多くなり、より深まる学びまでには導くことができなかった。今後も「発問」を軸として学習展開を組み立てること、そして一対一の学習形態ゆえの生徒の実態に合わせた導き方を考えていきたい。「ICTを使った授業展開」では、iPadで画像検索などの場合、生徒の検索意欲の高さを感じた。改善としては、題材に応じて検索する時間をやや多く設定した。生徒の評価は「できた」(表7Ⅲ6/24△→6/30○)となった。

以上のように、授業評価シートを活用したことで、各観点の一部分ではあるが、生徒の立場をより意識して具体的に授業の改善ができたと考える。

3) 「チェックシート」と「学びのシート」の活用について

学習展開の中に活動を盛り込み過ぎることがあり、「チェックシート」の項目をやや多めに選択しがちになっていた。そのため、項目の評価をする際には、活動を絞り切れずに複数の活動から判断することもあった。改善として、評価規準をより具体化し、「チェックシート」の項目をより焦点化して選択することが必要と考える。また、「学びのシート」の評価そのものについて、生徒の素直な感覚からの判断が読み取れたが、判断となった理由までは明らかにしていなかった。「学びのシート」の質問内容の正確な読みとりがどこまでできていたか、生徒の「もう少し」と判断した理由についてもはっきりと知ることが、授業の振り返りには必要であったと考える。加えて、研究授業を参観した教師の評価には大きなばらつきが見られた。中学の各教科では、専門性があるゆえに、授業者の意図や工夫を十分に読み取れない部分があるのではないかとと思われる。そうしたことを考慮し、今後は教師間の評価の仕方も検討することも必要かであると考えます。

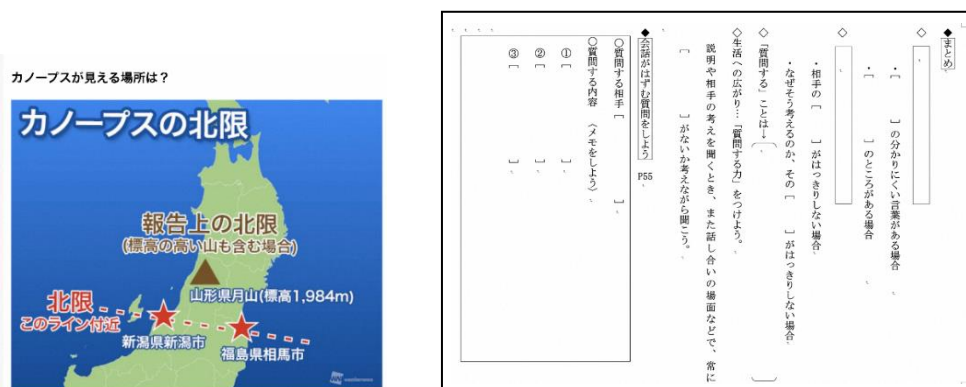


図1 iPadの画像(スクリーンショット)の例とワークシート

【実践例 2： 中学部 2 年英語】

1) 取組内容

英語の授業では、外国語による「聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと」の言語活動の幅広い力がつくように、日々授業づくりを行ってきた。単元の中には、思考を深める題材もあり、基礎文法を学びつつ、「主体的・対話的で深い学び」につながるような授業内容を考えて取り組んでいきたいと考える。

対象生徒は、英語が苦手な語彙数が少ない。本文の理解も教員に頼ることが多い。よってこの単元では、前籍校は長文の読み取りに取り組んでいることもあり、和訳を本人の力のできることを第 1 目標とし、その次に本文内容から国際理解について考える授業展開を考えた。生徒が和訳できるための支援としてプロジェクターを使用し、生徒自身で和訳できる量を増やしたい。

以下に実施した研究授業(12/4)の学習指導略案(表 9)と学習過程分析表(表 10)を示した。

表 9 学習指導略案

①単元名 PROGRAM 8-③ Friendship across Time and Borders		
②本時の学習		
(ア) 単元の目標 日本とトルコを結ぶ強い友情と絆の背景にある歴史を理解する。		
(イ) 学習計画 全 4 時間		
第 1 時 イラン・イラク戦争のさなか、トルコが日本人を救出した話を読み取る。		
第 2 時 遭難したトルコ人の救援活動の様子を読み取る。		
第 3 時 両国の関係を通してよりよい世界のために何が必要かを読み取る。(本時)		
第 4 時 After Reading の課題練習		
(ウ) 本時の目標		
・危機を助け合った両国が強い友情で結ばれたことを理解させ、内容を把握する。		
・「よりよい世界」を築いていくために大切なことについて考える。		
③本時の学習の展開		
	学習活動	活動への支援と指導上の留意点
導入	○ 初めの挨拶	
	① 簡単な英会話をする。 [図]	・日付、曜日、天気、体調等を英語で質問し、英語を活用する場面を設ける。
展開	② 本時の学習内容を知る。	・授業の内容を確認し、学習に見通しをもてるようにする。また、本時の目標が分かるように、ホワイトボードに板書して示す。
	③ 前回までに学習した本文内容を振りかえる。	・イラストや教科書の写真を使って前回まで習ったことを確認する。
	④ 本単元の新出語句を練習する。	・単語帳を使って単語の確認をする。
	⑤ セクション 3 の CD を聞く。 [ICT]	・生徒に聞きやすい音量になっているか確認する。
	⑥ ⑤で聞き取ったことをワークシートの 1 に記入する。	・日本語でも英語でもいいので聞き取れたことを書くように伝える。
	⑦ 本文を黙読する。	・黙読した後は問題を解くことを知らせる。
	⑧ ワークシートの 2、3 の問題を解く。	
	⑨ 本文の訳をワークシートに書く。	
	⑩ 本文内容を確認する。 [主] [図] [ICT]	・プロジェクターの画像を使って本文内容を確認していく。
		・必要に応じてヒントを与える。
		・進出語句・単語も確認しながら訳させる。
		・必要に応じて本文のどこに書かれているかも確認していく。
	まとめ	⑪ ワークシートの答え合わせをする。
⑫ 「よりよい世界」を築いていくために大切なことは何かを考える。 [図]		
⑬ 音読する。		・発音やアクセントを意識するように伝える。
	⑭ まとめ	
	・ワークシートの 5 に本文の要約を書き、発表する。	・要約したものを読むことで振り返りを行う。
	・チェックシートへの記入	
	・次回の授業の確認をする。	・次回の予告を行う。
④評価規準		
・本文の内容を理解することができる。		
・「よりよい世界」を築いていくために大切なことについて考えることができる。		

表 10 学習過程分析表

学習活動		
導入	① 簡単な英会話をする。 [附]	◆主体的な学び
	② 本時の学習内容を知る。	
	③ 前回までに学習した本文内容を振り返らせる。	
	④ 本単元の新出語句を練習する。	
	⑤ セクション3のCDを聞く。 [ICT]	
	⑥ ⑤で聞き取ったことをワークシートの①に記入する。	
	⑦ 本文を黙読する。	
	⑧ ワークシートの②、③の問題を解く。	
	⑨ 本文の訳をワークシートに書く。	
	⑩ 本文内容を確認する。 [目] [付] [ICT]	
展開	⑪ ワークシートの答え合わせをする。	◆対話的な学び
	⑫ 「よりよい世界」を築いていくために大切なことは何かを考える。 [深]	
	⑬ ワークシートの④に記入する。	
	⑭ ワークシートに記入したことを発表する。	
	⑮ 音読する。	
	⑯ まとめ	
	⑰ ワークシートの⑤に本文の要約を書き、発表する。	
	⑱ チェックシートへの記入	
	⑲ 次回の授業の確認をする。	
	⑳	
	◆ICTを使った授業展開	
	◆主体的な学び	
	◆対話的な学び	
	◆深い学び	
	◆ICTを使った授業展開	

2) 結果と考察

授業実施後の「チェックシート」と「学びのシート」の結果について、生徒と授業者、参観した教師の評価を表 11・12 に示した。

表 11 シートの評価の比較

項目	12/4		
	生徒	授業者	参観教師
◆ 主体的な学び			
A-1 本時の学習目標をわかりやすく説明できたか。 - 2子どもが見通しをもてる手立てを工夫できたか。	◎	○	◎○○○○
B 子どもが興味・関心をもてる導入ができたか。	◎	○	◎○○△○
C-1 予想や仮定を立てることへ導くことができたか。 - 2子どもが疑問や答えに気づく展開ができたか。	△	△	△
D 子どもからの発言や質問を促すことができたか。	◎	◎	◎◎○○○
E ワークシートや板書を工夫することができたか。	○	◎	◎◎◎○○
F 次の学習へつながる振り返りができたか。	◎	△	△
◆ 対話的な学び			
G-1 自分の考えをもてるような工夫や場面設定ができたか。 - 2 その〈根拠〉〈理由〉の発言を促すことができたか。	◎	◎	◎◎◎◎○
H-1 子どもが他者(友だち・教員・先哲の考え方・本を通した作者等)の考え方を理解できる手立てができたか。	○	○	○○○△○
I 学んだことを言語化できる場面が設定できたか。	◎	◎	◎◎○○○
◆ 深い学び			
J 自分の考えを深める手立てをすることができたか。	△	△	△
K 課題解決を行うための探求する場面を設定できたか。	○	◎	◎◎◎○○
L 学んだ情報を基に、自分の考えを広げるように導くことができたか。	◎	○	○○○○○
★ ICTを使った授業展開			
M ICTを使うことで題材に興味関心をもたせることができたか。	△	△	△
N ICTを使うことで課題をわかりやすく捉える手立てができたか。	○	○	◎○○○○
O ICTを使うことで理解の定着を図ることができたか。	△	△	△

[◎よくできた ○できた △もう少し改善が必要]

表 12 参観した教師の評価

- ・授業全体の構成について、目的に合った活動が上手に展開されていると思った。
- ・本生徒が活発に発言し、意欲的に取り組んでいる様子が感じ取れた。
- ・ワークシートがわかりやすい
- ・9月に比べると単語の理解はできている。
- ・単語の微妙な違いをどう理解させるか。
- ・文脈理解と単語の意味が1つでないこと、いくつか覚えていることが必要であるのでは。
- ・英語をもっと話し、聞く時間があつた方がよかつたのでは。
- ・上手に生徒が考えをもてるように促していた。
- ・考える時間を十分に取り、自分の言葉で考える場面があつた。
- ・トルコの地震から東日本地震まで、12年という年月が過ぎた支援だつた事実に気づかせる展開があつても、またおもしろかつたのでは。
- ・ワークシート記入時など、活動に必要な時間を十分に保障したり、教師自分も考えを述べたりするなど本生徒の考えが深まるような手立てが工夫されていた。
- ・活動⑫は生徒の考えを深めるよい発問であつた。この部分を考えさせる時間がもう少しあればよかつたと思った。(和訳の時間が必要なので仕方ないが。)
- ・プロジェクターを使用して、本文を板書として提示し、書き込みもしながら説明できていたことはICTの有効活用として、色々な授業に取り入れたいと思った。
- ・チェックシートの内容を再考すべきではないか。

本時の目標は2つある。1つ目は「本文の内容を把握する」である。対象生徒は本文に関する問題は理解できていた。2つ目の『『よりよい世界』築いていくために大切なことについて考える』については、学びのシートの⑥(G-1)「自分の考えを発信することはできましたか」の生徒の評価は◎であり、生徒はよく考え、自身の考えを発言することができていた。これらのことより、本時の目標は達成できた評価する。

「主体的な学び」については、ワークシートと時間配分を工夫した。その結果、苦手だつた英文の和訳を生徒自身でできる量が増えていった。ワークシートについては、「学びのシート」の⑤(E)「ワークシートに書きこむことはできましたか」の生徒の評価が○になっている理由を生徒は、「単語の意味がわからなかつたので、ワークシートに書きこむことができなかつたところがあるので○にした」と言っていた。改善として、この部分の「学びのシート」の文言については、記入時に説明するか、あるいは「学びのシート」の評価規準を具体的に書くべきだと考える。

「対話的で深い学び」については、生徒が自分の考えをもてるように、発問の仕方を工夫し、考える時間を設定した。このことにより、生徒が発言できるきっかけとなり、本人とは違う意見についても考えることができ、「対話的で深い学び」の手立てができたと考えられる。また、参観した教師から指摘があつたように、日本が支援に行つたトルコ地震から12年経つて起きた東日本大震災に、トルコが日本を支援したという事実に気づかせる場面があればより深い学びになると考える。

「ICTを使った授業展開」では、和訳の際の支援として、プロジェクターを使用した。このプロジェクターを使った支援の効果について、「学びのシート」⑫(N)「ICTを使うことで分かりやすく、理解しやすい学習になりましたか」の評価から見えていくと、生徒自身で和訳することが難しくプロジェクターの支援が必要な場合は評価は◎になり、プロジェクターを見ずに生徒自身で和訳できた場合は評価が△となる。そこで本単元では、「ICT」の力を必要とせず和訳できることが段階的に(◎→○→△)評価で示されることを確かめることとした。1回目の授業では、生徒自身で和訳することが難しく、プロジェクターの支援を必要としたため生徒の評価は◎であり、2回目の授業では、1回目より生徒自身で和訳することはできていたものの、プロジェクターの支援を頼ることが多かつたため生徒

の評価も◎であった。3回目の（本研究授業）ときは、プロジェクターを見なくても生徒自身で和訳できる量が増えており、そのために生徒の評価は○になっていた。「プロジェクターがなくても教科書だけでも大丈夫だった」と生徒も話していた。以上のことから、プロジェクターを使った支援は生徒の和訳の力を向上させる手立てとなったと思われる。

3) 「チェックシート」と「学びのシート」の活用について

授業評価シートを活用する際には、授業内容をできるだけ全項目にあてはまるように考えたが、それでは重要な点が分からなくなる。よって改善として、主な活動に焦点をあてた学習展開を考え、シートの項目の選択をしていきたい。さらに、「学びのシート」には生徒自身の評価の理由を書き込む欄を設けると、生徒の評価の考えが具体的に分かり、授業改善の内容が明らかになるとと思われる。同時に、教師側の評価とずれがあった場合の解決にもつながると考える。

また、授業者と参観教師との「チェックシート」の評価に違いがあった。各教科によって観点の捉え方が違うのではないかと考えられる。このことから、「チェックシート」の内容も再検討をしたい。

PROGRAM 8-② Friendship across Time and Borders

1 聞き取れたことを書きましょう。

2 トルコと日本で地震が起きたときに両国はどんなことをしましたか。

3 教科書 P78 を読んで、内容に合うものには○を、合わないものには×を書きましょう。

1. Japan and Turkey share a very strong friendship today. ()

2. Japanese people didn't help Turkish people when a big earthquake hit Turkey in 1999. ()

3. Our world will be a better place if people help each other. ()

4 「よりよい世界」を築いていくために大切なことは何でしょうか。

5 本文の要約を3文程度でノートに書いてみましょう。

図2 ワークシート

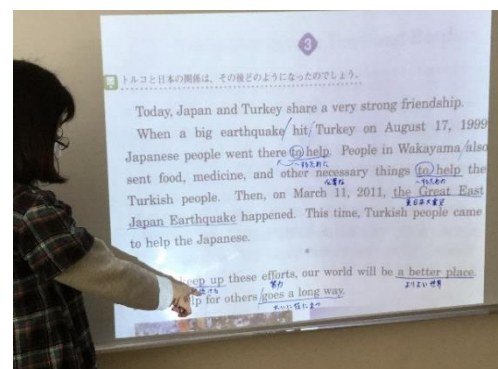


図3 プロジェクターを使用して説明

【実践例3：中学部2年数学】

1) 取組内容

対象生徒は6月から本分校で学習している。数学は本人の得意教科であり、計算力、理解力ともにあり、数学的な思考もできている。題材である連立方程式の解法は加減法と代入法の2つがある。解法はそれぞれ異なるが、いずれも途中の目的は、「文字を消去して、1元1次方程式に帰着させる」ということである。加減法と代入法による解法については前時までで既習済みであるため、今回扱う連立方程式についてどのように整理すればこれまでのように解けるのかを気づくことができるようにしたい。また、学習内容の確認としての動画視聴や演習問題について、タブレット端末を使用して行い、さらに学習内容の定着を図るために、生徒の言葉で学習内容のまとめができるようにしたい。

以下に実施した研究授業(6/24)の学習指導略案(表13)と学習過程分析表(表14)を示した。

表13 学習指導略案

①単元名	
第2章 連立方程式 1節 連立方程式 5. いろいろな連立方程式	
②本時の学習	
(ア)単元の目標	
かっこがある連立方程式、係数が小数である連立方程式について、その解き方を考え、それらの連立方程式が解けるようになる。	
(イ)学習計画(全8時間)	
①連立方程式とその解	・・・1時間
②連立方程式の解の求め方	・・・1時間
③加減法による解き方	・・・2時間
④代入法による解き方	・・・1時間
⑤いろいろな連立方程式	・・・3時間(本時1/3時間目)
(ウ)本時の目標	
かっこがある連立方程式、係数が小数である連立方程式について、これまでの連立方程式との違いに気づき、整理することによってこれまでと同様に解くことができることを理解する。	
(エ)学習の展開	
導入5分	<p>学習活動</p> <p>1 連立方程式の2つの解法(加減法・代入法)について再確認する。</p> <p>2. 本時の学習内容と目標を確認する。いろいろな連立方程式が出てくるが今までとの違いに気づき、どのようにすれば解けるか考える。</p> <p>展開</p> <p>1 例1かっこがある連立方程式の解法</p> <p>①例1の連立方程式を提示してこれまでとの違いに気づく。</p> <p>例1 かっこがある連立方程式 次の連立方程式を解きましょう。 $\begin{cases} 5x+2y=12 & \text{.....①} \\ 2x+3(x-y)=7 & \text{.....②} \end{cases}$</p> <p>②どのような処理を行えば、解くことができるかを発表する。※分配法則の確認。</p> <p>③例1の連立方程式を②を整理することでかきなおし、その連立方程式を解く。</p> <p>$\begin{cases} 5x+2y=12 \\ 5x-3y=7 \end{cases}$</p> <p>活動への支援と指導上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 連立方程式の2種類の解法について生徒に発言させ、補足を教師が行いたい。 いろいろな連立方程式が出てくるが今までとの違いに気づき、どのようにすれば解けるか考えるように促す。
15分	<p>④問2を聞いてみる。</p> <p>例2 次の連立方程式を解きなさい。 $\begin{cases} 3x+2(x-y)=14 & \text{.....①} \\ x+2y=10 & \text{.....②} \end{cases}$</p> <p>2 例2係数に小数をふくむ連立方程式の解法</p> <p>例2 係数に小数をふくむ連立方程式 次の連立方程式を解きましょう。 $\begin{cases} 3x-2y=13 & \text{.....①} \\ 0.2x+0.5y=-0.4 & \text{.....②} \end{cases}$</p> <p>① 例2の連立方程式を提示してこれまでとの違いに気づく。</p> <p>② ②の両辺を10倍にして整理すると②の係数がすべて整数になることに気づく。</p> <p>③ 例2の連立方程式を②を10倍することで整理してかきなおす。</p> <p>④ 問4を解いてみる。</p> <p>例4 次の連立方程式を解きなさい。 $\begin{cases} 0.4x-0.7y=11 & \text{.....①} \\ 2x-5y=1 & \text{.....②} \end{cases}$</p> <p>3. パソコン動画をを使用して、かっこが合った連立方程式や、係数が少数の連立方程式について再確認する。(8分25秒)</p> <p>4. iPadアプリ「数学トレーニング」を利用して2つの式の係数がともに少数の場合を扱う。</p> <p>まとめ5分</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめを行う。 宿題の確認 ※問2(2)、問4(2)、ワーク 次回の授業の予告を行う。 チェックシートの記入。
15分	<p>・問2の(1)を解く。</p> <p>※(2)は宿題</p> <p>例1同様にかっこのついた連立方程式を整理して解き、例1と同じような方法で解けることを理解する。</p> <p>主/判 生徒に例2を示し、これまで扱った連立方程式との違いを考えさせ、気付いたことを発表させる。</p> <p>予 予想される発表「係数が小数である」</p> <p>主 「係数が小数である」ことから「小数を整数にするためにはどうすればよいか」という問いかけから生徒の考えを引き出す。※必要に応じてヒントを与えていく。「0.2を2にするにはどうするか?」等</p> <p>→②の両辺を10倍すると係数は整数になることに気づく。</p> <p>・連立方程式を②を10倍し、これを②としてかきなおし解いてみる。(問3)</p> <p>・②は②を整理した式であり、①と②の連立方程式を解くことは、①と③の連立方程式を解くことと同じであることを説明する。(例1と同様)</p> <p>・例2の解法手順に従い、問4の(1)を解いてみる。</p> <p>※(2)は宿題</p> <p>・係数を整数に整理することでこれまでと同じように解けることを確認する。</p> <p>ICT 本時の学習内容のポイントを動画視聴で再確認させたい。</p> <p>ICT 2つの式の係数がともに少数の場合を扱う。2つとも整理して書きなおし解くことを伝える。</p>
(オ)評価規準	
<ul style="list-style-type: none"> かっこがある連立方程式や係数が小数である連立方程式について、どのようにすれば解くことができるかを考えることができる。 いろいろな連立方程式を整理し、これまでと同じように解くことができる。 	

表 14 学習過程分析表

学習活動		
導入	1 加減法・代入法の再確認を行う。	◆主体的な学び
	2. 本時の学習内容と目標を確認する。	A-1 本時の学習目標をわかりやすく説明できたか。 - 2 子どもが見通しをもてる手立てを工夫できたか。
展開	1 かつこがある連立方程式。 ①例1の連立方程式を提示し、これまでとの違いに気づく。 ②どのような処理を行えば解くことができるかを発表する。 ③式を整理してかきなおし、連立方程式を解く。	B 子どもが興味・関心をもてる導入ができたか。
		C-1 予想や仮定を立てることへ導くことができたか。 - 2 子どもが疑問や答えに気づく展開ができたか。
		D 子どもからの発言や質問を促すことができたか。
		E ワークシートや板書を工夫することができたか。
	2 小数をふくむ連立方程式 ①例2の連立方程式を提示し、これまでとの違いに気づく。 ②両辺を10倍して整理すると係数がすべて整数になることに気づく。 ③例2の②を10倍してかきなおす。 ④問4を解く。	F 次の学習へつなげる振り返りができたか。
		◆対話的な学び
		G-1 自分の考えをもてるような工夫や場面設定ができたか。 - 2 自分の考えの根拠理由の発言を促すことができたか。
		H 子どもが他者(友だち・教員・先哲の考え方・本を通した作者等)の考え方を理解することができる手立てができたか。
	3. パソコン動画で本時の学習内容を再確認する。	I 学んだことを言語化できる場面が設定できたか。
		◆深い学び
4. iPadアプリ「数学トレーニング」を利用して再確認する。	J 自分の考えを深める手立てをすることができたか。	
	K 課題解決を行うための探求する場面を設定できたか。	
まとめ	L 学んだ情報を基に、自分の考えを広げるように導くことができたか。	
	◆ICTを使った授業展開	
	M ICTを使うことで題材に興味関心をもたせることができたか。	
	N ICTを使うことで課題をわかりやすく捉える手立てができたか。	
	O ICTを使うことで理解の定着を図ることができたか。	

2) 結果と考察

授業実施後の「チェックシート」と「学びのシート」の結果について、生徒と授業者自身および参観した教師の評価を下の表 15・16 に示した。

表 15 シートの評価の比較

項目	6/24		
	生徒	授業者	参観教師
◆ 主体的な学び			
A-1 本時の学習目標をわかりやすく説明できたか。 - 2 子どもが見通しをもてる手立てを工夫できたか。	◎	◎	◎◎◎◎◎
B 子どもが興味・関心をもてる導入ができたか。	◎	○	△○○◎◎
C-1 予想や仮定を立てることへ導くことができたか。 - 2 子どもが疑問や答えに気づく展開ができたか。	◎	◎	◎◎◎◎◎
D 子どもからの発言や質問を促すことができたか。	◎	◎	◎◎◎◎◎
E ワークシートや板書を工夫することができたか。	◎	◎	◎◎◎◎◎
F 次の学習へつなげる振り返りができたか。	◎	◎	◎◎◎◎◎
◆ 対話的な学び			
G-1 自分の考えをもてるような工夫や場面設定ができたか。 - 2 その〈根拠〉〈理由〉の発言を促すことができたか。	◎	○	◎◎◎◎◎
H-1 子どもが他者(友だち・教員・先哲の考え方・本を通した作者等)の考え方を理解できる手立てができたか。	◎	◎	△○○◎◎
I 学んだことを言語化できる場面が設定できたか。	◎	○	◎◎◎◎◎
◆ 深い学び			
J 自分の考えを深める手立てをすることができたか。	◎	◎	◎◎◎◎◎
K 課題解決を行うための探求する場面を設定できたか。	◎	◎	◎◎◎◎◎
L 学んだ情報を基に、自分の考えを広げるように導くことができたか。	◎	◎	◎◎◎◎◎
★ ICTを使った授業展開			
M ICTを使うことで題材に興味関心をもたせることができたか。	◎	○	◎◎◎◎◎
N ICTを使うことで課題をわかりやすく捉える手立てができたか。	◎	◎	◎◎◎◎◎
O ICTを使うことで理解の定着を図ることができたか。	◎	◎	◎◎◎◎◎

[◎よくできた ○できた △もう少し改善が必要]

表 16 参観した教師の評価

- ・ 解き方を生徒自身に発言させてから、進めることができていた。
- ・ 全体的にわかりやすい説明、導き方だった。
- ・ 例2の10倍にする問題での対話的学びの部分で、発言の根拠まで促すことは難しいことだと思う。生徒自身も自然に答えることができており、対話としては成立していた。
- ・ 学習のふりかえり(まとめ)について、教師の説明ではなく、生徒自身が振り返る言葉がもう少し多くあればよかった。
- ・ 学びのシートに記入する場面で、生徒自身が自ら言語化できる流れになっていたのは良かった。
- ・ 授業の一連の流れでスムーズに展開されていた。

- ・生徒自身が考える時間や説明する場面の設定を工夫してもよかったのではないか。
- ・生徒自身の「両方とも小数であったらどうしよう？」の気づきはよかった。その発言を生かした展開にスイッチすれば、より思考が深まったかもしれない。
- ・生徒が自ら気づくために何をすればよいのか、教師の言葉での誘導にならずにそれ以外の手立てを考えてみたいと思った。
- ・生徒がいろいろな「気づき」によって連立方程式が解けるような内容になっていた。

本時の学習の目標は、かっこや小数のある連立方程式について、これまで扱った連立方程式との違いに気づき、その解法について考え、解法することであった。生徒には各例題を提示し、生徒は違いに気づき、その解法の流れを考えることができた。

授業において、重点を置いた点は、①学習目標を分かりやすく説明すること(A-1)、②発言を促す質問を行うこと(D)、③学んだことを言語化する場面を設定すること(I)、④ICT機器の活用(M・N・O)の4つである。①は前時の振り返りから本時の目標を明確に伝えることができた。②についても、これまで扱った連立方程式との違いを示すことにより、生徒は自身の言葉でその違いと解法方法を述べることができた。③については、授業の「まとめ」として学習内容を自分の言葉で確認することができたが、ここでは、教師が補足しすぎた部分もあった。改善として、授業の「まとめ」の部分で、教師が補足した部分も生徒自身が考えられるような授業展開をしていきたい。また、こうした場面で生徒自身から気づくような言葉のやり取りができれば、対話的な学びと深い学びにつながり、生徒自身が自分の言葉で内容を整理して授業を終えることになると思う。この反省をもとに、この後の自己評価授業では、生徒の言葉で学習内容を振り返るような改善ができた。④については、本時の学習内容を短時間でまとめた動画を視聴して学習内容を再確認し、タブレット端末のアプリケーションを用いて演習問題を解くことができた。このアプリケーションを使うことによって、生徒に達成感をもたせることができ、効果的な活用ができたと考える。

3) 「チェックシート」と「学びのシート」の活用について

「チェックシート」と「学びのシート」の2つのシートを活用することにより、生徒と教師、両者の授業に対する評価を確認することができた。生徒側は自身の授業の取り組みについて振り返ることができ、また教師側についても、自身の授業の目標がどの程度達成できたかを生徒の評価も含めて確認することができた。

今後の課題としては、児童生徒と教師のチェックシートの各項目において、両方で評価の差があった場合、その差をどのように捉えて授業改善に反映させるかを検討する必要があると考える。

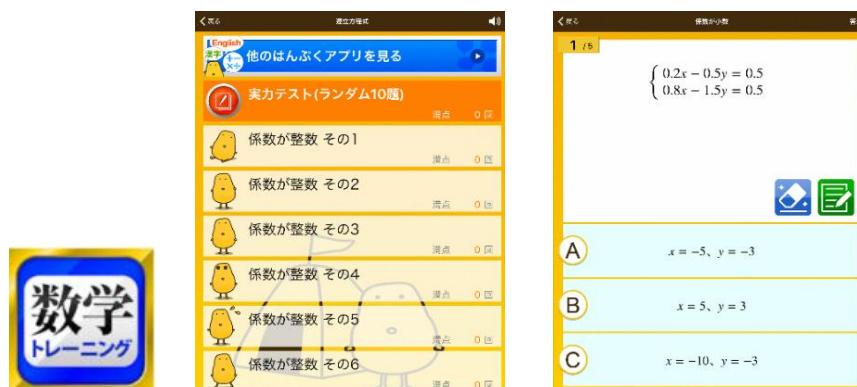


図4 アプリ「数学トレーニング」

【実践例4：小学部5年外国語】

1) 取組内容

小学校第5学年及び第6学年の外国語は、本年度より教科化されている。学習指導要領によると「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと（[やり取り][発表]）、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目指す。」とある。

本単元では、音声やゲームで慣れ親しんだ「Go straight」「Turn right.」等の表現を使って、道案内のやり取りを行う。地図を使って行き方を尋ねたり答えたり、実際に児童役教師とやり取りすることで理解を深めるとともに、「主体的・対話的で深い学び」につながるような学習展開を目指したい。

対象児童は、何事に対しても意欲的に取り組むことができる。外国語は好きな教科の一つで、興味・関心が高く、積極的に活動できる。また、発音もきれいで理解力もある。

以下に実施した研究授業(12/8)の学習指導略案(表17)と学習過程分析表(表18)を示した。

表17 学習指導略案

① 単元名 Unit5 Where is the post office? (東京書籍「NEW HORIZN Elementary」)		
② 単元の目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・道案内、位置、日常生活、建物などに関する語句や表現に慣れ親しむ。 ・場所をたずねたり、答えたりするやりとりができる。 ・世界の地図や標識、ピクトグラム、英語と日本語の違いについて考える。 		
表現 : Where is ~? / Go straight for ~ blocks. / Turn right (left) at the ~ corner. / You can see it on your ~. など		
③ 学習計画 (ア) 道案内、位置、建物などに関する語句や表現を知る…1時間		
(イ) 英語を聞いて行き先までの道順をなぞろう…1時間		
(ウ) ペアになって道案内をしあおう…1時間 (* 本時)		
(エ) どこにあるかたずねあおう…1時間		
(オ) 世界の地図や標識について考えよう…1時間 全5時間		
④ 本時の学習 (3/5時間)		
(ア) 本時の目標		
・場所を尋ねたり、答えたりする。【領域：話すこと(やりとり)】		
士 (イ) 展開 (教科書 p49)		
	学習活動	指導の留意点
導入	・始めの挨拶をする。	Let's start English class. ok? ・気分や天気、日付と曜日について聞く。 How are you today? What's the date today? What day is it today? How is the weather?
展開	① 【Our Goal】 本時のめあて「場所を尋ねたり、答えたりしよう」を知る。国	・本時の活動のめあてを確認する。
	② 単語の復習をする。国 [CT]	・音声を活用し、正確な発音を意識するようにする。(PD p22,23)
	① 【Word Link】「建物」「道案内」	・道案内するために必要な表現であることを意識するようにする。
	② キーワードゲーム ③ 【Let's Chant】「Go straight」「Turn right」 ④ Go & Turn ゲーム	・キーワードゲームは、軍手をはめて(感染予防対策)行う。 ・「Go straight」「Turn right (left)」は、動作化しながら覚えるようにする。
③ 【Let's Listen 2】 道案内を聞いて、グリーン先生が何と尋ねたかを選ぶ。国・対	・わからない地図記号や英語は、iPadで調べてもよみこを伝える。 ① 地図記号の確認をし、英語で言う。 ② 道案内【音声】を聞き、答えを考える。	・丸磁石を道案内のとおり動かしてみる。 ・必要に応じて、音声を繰り返し、考える時間を十分確保する。
④ 【Let's Try 4】 ペアになって、道案内をし合おう。国・対・深	① モデル会話を見る/聞く。 ② 目的地の建物を地図記号カードから一つ選んで、ペアで尋ね合う。	・道案内の基本的なやりとりを示したカードを提示する。 ・電車や駅は考慮しなくてよいこと、スタート地点を変更してもよいことを伝え、考える時間を十分確保する。
まとめ	⑤ まとめ(ひがにに記入)をする。国	・本時の振り返りを評価し、次回の学習につなげる。 That's all for today's lesson. See you next time. (* 本時、ソーシャルディスタンス、音量など感染症対策に十分留意する。)
(ウ) 準備物	ピクチャーディクショナリー(PD)、ワークシート、学びのシート、絵英語カード、地図記号カード、消しゴム(key word game用)、iPad、IDカードホルダー、警官帽、軍手、等	
(エ) 評価規準	・既習の道案内、建物などに関する語句を使って、場所を尋ねたり、答えたりすることができたか。<発言> <行動観察> <ワークシート>	

表 18 学習過程分析表

学習活動			◆主体的な学び
導入	① 本時のめあてを知る。		A-1 本時の学習目標をわかりやすく説明できたか。 - 2子どもが見通しをもてる手立てを工夫できたか。
	② 単語の復習をする。☒ ICT		B 子どもが興味関心をもてる導入や展開ができたか。 C-1 予想や仮定を立てることへ導くことができたか。 - 2子どもが疑問や答えに気づく展開ができたか。
展開	③ 道案内を聞いて、グリーン先生が何と尋ねたかを選ぼう。☒・対		D 子どもからの発言や質問を促すことができたか。 E ワークシートや板書を工夫することができたか。 F 次の学習へつながる振り返りができたか。
	④ ペアになって、道案内をし合おう。☒・対・深		◆対話的な学び G-1 自分の考えをもてるような工夫や場面設定ができたか。 - 2自分の考えの根拠理由の発言を促すことができたか。 H 子どもが他者(友だち・教員・先哲の考え方・本を通した作者等)の考え方を理解することができる手立てができたか。 I 学んだことを言語化できる場面が設定できたか。
まとめ	⑤ まとめ(プリントに記入)をする。☒		◆深い学び J 自分の考えを深める手立てをすることができたか。 K 課題解決を行うための探求する場面を設定できたか。 L 学んだ情報を基に、自分の考えを広げるように導くことができたか。
			◆ICTを使った授業展開 M ICTを使うことで題材に興味関心をもたせることができたか。 N ICTを使うことで課題をわかりやすく捉える手立てができたか。 O ICTを使うことで理解の定着を図ることができたか。

2) 結果と考察

授業実施後の「チェックシート」と「学びのシート」の結果について、児童と授業者自身及び参観した教師の評価を表 19・20 に示した。

表 19 シートの各評価の比較

項目	12/8		
	児童	授業者	参観教師
◆ 主体的な学び			
A-1 本時の学習目標をわかりやすく説明できたか。 - 2子どもが見通しをもてる手立てを工夫できたか。	○	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎
B 子どもが興味・関心をもてる導入ができたか。	◎	◎	◎◎◎◎◎
C-1 予想や仮定を立てることへ導くことができたか。 - 2子どもが疑問や答えに気づく展開ができたか。	△	△	△
D 子どもからの発言や質問を促すことができたか。	◎	◎	◎◎◎◎◎
E ワークシートや板書を工夫することができたか。	◎	◎	◎◎◎◎◎
F 次の学習へつながる振り返りができたか。	△	◎	◎◎◎◎◎
◆ 対話的な学び			
G-1 自分の考えをもてるような工夫や場面設定ができたか。 - 2 その〈根拠〉〈理由〉の発言を促すことができたか。	◎	◎	◎◎◎◎◎
H-1 子どもが他者(友だち・教員・先哲の考え方・本を通した作者等)の考え方を理解できる手立てができたか。	△	△	△
I 学んだことを言語化できる場面が設定できたか。	◎	◎	◎◎◎◎◎
◆ 深い学び			
J 自分の考えを深める手立てをすることができたか。	◎	◎	◎◎◎◎◎
K 課題解決を行うための探求する場面を設定できたか。	△	△	△
L 学んだ情報を基に、自分の考えを広げるように導くことができたか。	◎	△	◎◎◎◎△
★ ICTを使った授業展開			
M ICTを使うことで題材に興味関心をもたせることができたか。	◎	◎	◎◎◎◎◎
N ICTを使うことで課題をわかりやすく捉える手立てができたか。	△	△	△
O ICTを使うことで理解の定着を図ることができたか。	△	◎	◎◎◎◎◎

[◎よくできた ○できた △もうすこし改善が必要]

表 20 授業者と参観した教師の評価

授業者
<ul style="list-style-type: none"> ・対象児童の1回目の学びのシートを基に、授業改善を意識して本研究授業に臨んだ。単純な比較はできないが、今回の学びのシートの方が、◎が2つ(G、L)増え、△が1つ(I)減る結果となった。【※表中の児童の評価の欄参照】 ・対象児童の外国語に対する意欲や能力が高く、スムーズに展開できた。 ・活動内容が多いと思いながらも、精選しきれなかった。 ・前時、本時とSTに入ってもらったことで、児童の意欲がより増し、MTが指導に専念できる場面も増えた。また、打ち合わせをしたことで、学習のねらいや展開が共有でき、内容の修正もできた。
参観した教師の評価
<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物や手元で見る視覚教材の一つ一つが工夫され、丁寧に準備されていた。 ・めあてや活動の流れ、今日のポイントが一度に見えてわかりやすかった。 ・Go & Turn ゲームやモデル会話、道案内をし合う場面のそれぞれに、STの子ども役がいることで、英会話を成立させることができ、動きを伴ってしっかりと理解へつながっていた。 ・STの子ども役がいることで、対話的場面が増えた。 ・テンポよく、活動があることで自然と新しい言語が身に付くと感じた。 ・音楽やリズムを使用して発声を中心とした授業展開だった。さらに、楽しみながら学習できる工夫もあった。児童も、よく発言していた。 ・教材をたくさん、またICT教材も効果的に使われていた。 ・少し早口でしょうか。 ・教材が多いので整理するとよい。 ・話しかけすぎる場面があった。児童が自分でやっているときは待つ。 ・録音した英会話の音量が小さかったので、スピーカーを使うとよい。 ・学びのシートとチェックシートの項目が連動していない(例えば、学びのシート⑩とチェックシートL)と思われる項目がある。 ・今回の授業に限らず、評価が付けにくいところがあったので、教師のチェック項目をそれぞれに合わせて、より具体的に書いてはどうか。そうすれば、評価もしやすくなるのではないか。

児童の1回目の「チェックシート」(12/1実施-自己評価授業)の○と△に着目し、学習の目標をより明確に提示すること、児童の発言する場を増やすこと、ワークシートにも目標の振り返りができる項目を設定すること、の3つを改善点として研究授業(12/8実施)に臨んだ。その結果、「表19 シートの各評価の比較」の児童の評価が○であったのが◎が2つ(G、L)となり、△であったのが○が1つ(I)となった。学習目標の明確化については、授業者としてはより強調して提示したつもりだったが、児童の評価では、○のままであった。また、対話的な活動の充実を目指して、小学部の教師が児童役として参加した。

本時の目標については、児童の「学びのシート」の自由記述欄に、「たずねられた場所に対して、正確に答えられた。」とあり、ワークシートの「道案内をする表現がわかり、場所をたずねたり、答えたりできましたか？」の設問にも「よくできた」の項に○印があったこと、実際のやりとりや発言の様子などからも十分達成できたと考えられる。また、授業実施後の学校生活の場面でも、対象児童が教室から職員室に移動する際に、廊下を「Go straight.」と繰り返しながら進み、最後に「You can see it on your right.」と発言するなど、主体的に外国語を用いる様子が見られた。

3) 「チェックシート」と「学びのシート」の活用について

「シートの各評価の比較(表19)」の研究協議の項でも述べているように、「チェック

シート」と「学びのシート」の項目がより連動するような文章表現にすると、それらの比較がより容易になり、授業改善へもつながりやすくなるのではないだろうか。併せて、それぞれの教科や単元に応じたより具体的な表現に変えれば、児童生徒も教師もより評価しやすくなると考えられる。しかしながら、「チェックシート」と「学びのシート」は、あくまでも授業改善のための一つのツールであると押さえ、その評価のみに捉われすぎることがないように留意したい。

Unit 5 道案内の基本的な表現

1 話しかけよう

2 道案内のやり取りをしよう。
①たずね方
②答え方

3 お礼を言って別れよう

道をたずねられてもわからないときは?

I don't know.

Excuse me.

Yes?.

Where is the ~ ?

Go straight for blocks.

Turn right (left).

You can see it on your .

Thank you.

You're welcome.

図5 道案内の基本的なやり取りを示したカード

Unit 5 道案内をしよう。

どこにあるかを たずねる/答える。

観光客: Where is the post office?
あさひ: Go straight for two blocks.
Turn right.
You can see it on your left.

は、どこにありますか。?

グリーン先生:
() () () () ?

警察官:
() () for () block.
() () .
() () () on your () .

★ 日本語と英語を線で結びましょう。

レストラン ・ fire station.
警察署 ・ factory
病院 ・ restaurant
工場 ・ hospital.
消防署 ・ library
図書館 ・ police station.

Where is the ~ ?
① Where is the ~ ?
② Where is the ~ ?
③ Where is the ~ ?

★ 道案内をする表現がわかり、場所をたずねたり、答えたりできましたか? (よくできた・できた・もう少し)

★道案内をする表現がわかり、場所をたずねたり、答えたりできましたか?
(よくできた・できた・もう少し)

図6 ワークシート

【実践例5：小中学部合同自立活動～分身ロボットを使った学習～】

本分校の児童生徒は、突然、病気になり入院生活を送ることになり、不安や心配を抱えながら入院期間のみ本分校で学習している。今年度はコロナウイルス感染症予防のため、これまで行っていたような音楽鑑賞会や、読み聞かせの会など、外部講師による学習や行事が全て中止となった。

6月になって、分身ロボットを2週間無料で提供してくださる話があり、その期間内にマジックショーや校外学習を計画し、実践することとした。普段は個別に学習している児童生徒が合同で学習したり、また入院中行くことのできない前籍校やショッピングモールなどを訪れたりするなかで「主体的・対話的で深い」学びを保障する学習が展開できると考え、授業を行い、検討することとした。

1) 学習計画

①期間 令和2年10月29日(木)～令和2年11月11日(水)

②場所 高知大学医学部附属病院第一病棟7階教室、病室、児童生徒が行きたい場所

③対象 分校在籍児童生徒

第1次 事前学習 10/23(水) 5限

- ・分身ロボットと学習計画について知る
- ・分身ロボットを使って行きたいところ、会いたい人、やりたいことを考える
- ・自分の分身ロボットの名前を決める
- ・最終日のイオンで行きたい店、買いたいものを決める

第2次 分身ロボットを使ってでかけよう(1回以上何回でも)

担任、担当が期間中に1回以上の体験を計画、実施する

第3次 11/4(水) 5限 マジックショーを見よう(計画中)

第4次 11/11(水) ショッピングモールに買い物にでかけよう

14:00～14:05 自己紹介

14:05～14:15 分身ロボット提供会社社員による絵本の読み聞かせ

14:20～14:35 分身ロボットでショッピングモールへ移動

提供会社社員がタクシーで案内

14:35～15:15 買い物体験(1人1,000円ほどでプレゼント)

15:15(20) 現地で終了

2) 結果

【事前学習】 普段の学習は教科書や学習進度が違うこともあり個別学習で行っている。学校も学年も異なる児童生徒と一緒に学習する機会はなかったが、この機会に同じ学校の仲間としてチームで考えたり、話し合ったりできるよう合同で授業を行った。男子生徒2名(中1、中2各1名)、女子児童生徒2名(小5、中1各1名)がそれぞれチームになって話し合いながら、今日のミッション(図7)をクリアしていくこととした。

中1男子生徒は、入院したばかりで、戸惑いも多く、また初対面であったこともあり会話は弾まず、教師が仲介して話を進め、何とかミッションクリアとなった。

女子児童生徒も初対面ではあったが、小5女子児童が積極的に発言したことや、教師の仲介もあり話し合いとして成立していた。

今日のミッション

- 分身ロボットって何？
- 分身ロボットを使って行う活動について考える
チームで自分のことを話したり
友達や先生の意見を聞いて参考にしたり

どこに行っても何をしたいかを定める
イオンでは、どのお店で何を買いたいかを定める
(1000円以内)

- 発表 チーム代表

- ①自分のことを話したり
→これまで行ったところを伝え合う
- ②友達や先生の意見を聞いて参考にしたり
どこに行っても何をしたいかを定める
- ③イオンでは、どのお店で何を買いたいかを定める
(1000円以内)

図7 授業の目標と評価

表21 事前学習指導略案

自立活動学習指導略案

日時 令和2年10月28日(水) 5限目 14:30~15:15

場所 小中学部教室

対象 分校児童生徒
小5女子1名、中1女子1名、男子、
中2男子1名 計4名

指導者 MT安東 ST魚山、岡本

- 単元名 「分身ロボットでかけよう」
- 単元の目標
分身ロボットを経験することで、入院中のストレスを軽減し、学習上又は生活上の困難さを改善・克服するための意欲につながる。
- 学習計画
 - 第1次 【導入】10/23(水)5限 担当 安東
 [内容]・分身ロボットと学習計画について知る
 ・分身ロボットを使って行きたいところ、会いたい人、やりたいことを考える
 ・自分の分身ロボットの名前を決める
 ・最終日のショッピングモールで行きたい店、買いたいものを決める
 分身ロボットを使ってかけよう(1回以上何回でもいいです)担任、授業担当
 - 第2次 11/4(水)5限 マジックショーを見よう(計画中)担当安東
 - 第3次 11/11(水)ショッピングモールに買い物にかけよう
 【導入】10/23(水)5限 担当 安東
 [内容]・分身ロボットと学習計画について知る
 ・分身ロボットを使って行きたいところ、会いたい人、やりたいことを考える
 ・自分の分身ロボットの名前を決める
 ・最終日のショッピングモールで行きたい店、買いたいものを決める
- 本時の学習
 - ① 本時の目標
 - ・学習計画を知り、学習に意欲的に参加する。⇒(評価)自分の意見が言えたか(主)
 - ・これまでの経験や得た知識を活用しながら(深)、行きたい場所ややりたいことを考えることができた。(評価)できたか(深)(主)
 - ・友達や教員と話し合いができた。(評価)できたか(対)

② 学習の展開	
学習活動	活動への支援と指導上の留意点
1 はじめのあいさつ。 入 入・今日することを知る 10 自己紹介。 分 チーム発表	集団での学習が初めてのため、自己紹介をする。 チーム男子(魚山)とチーム女子(岡本)で学習を進める。教員は支援しすぎないようにしながら、児童生徒の自発的な行動を促す。
2 本時の目標を知る。 30 3単元の学習計画について知る。	・自分の目標が分かり、この授業の中で達成しようとする意欲をつける。 ・自分の目標を選択し、ワークシートに記入する。
4 ワークシートにそって学習を進める。 5 ワークシートをまとめる。	・できるだけ児童生徒が自分で、または協力して学習を進めるよう支援する。 ・教員は、生徒が困っているときや活動が止まっているときには簡潔な言語指示により児童生徒に気づかせ、行動につなげる。 →簡潔な言語指示 どうする、何、どこ・・・ ※常時、ソーシャルディスタンス、声量等、感染症対策に留意する
6 ワークシートの内容からピックアップして紹介する。 7 自分の目標に対して評価する。 10 8今後の学習について。 分 9終わりのあいさつ。	※誤字にのらない、声量注意(安東) ・チームの中で発表できるというが、時間がなければMTを紹介する。 ・どうしてその評価になったのが、 ・評価の根拠となる行動について考える。

5 準備物
学習系PC、プロジェクター、プレゼン資料、ワークシート、ロボット(分身ロボットはまだ届いていないため代用品)

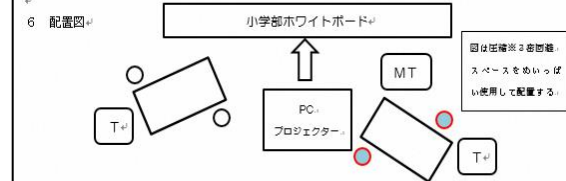


表 22 学習過程分析表

導入 展開 まとめ	① 本時の学習内容を知る。 ※ P P を使用する。 ・自己紹介 主・対 ・チーム発表	◆主体的な学び A-1 本時の学習目標をわかりやすく説明できたか。 - 2 子どもが見通しをもてる手立てを工夫できたか。 B 子どもが興味関心をもてる導入ができたか。 C-1 予想や仮定を立てることへ導くことができたか。 - 2 子どもが疑問や答えに気づく展開ができたか。 D 子どもからの発言や質問を促すことができたか。 E ワークシートや板書を工夫することができたか。 F 次の学習へつながる振り返りができたか。
	② 本時の目標を知る。 主	◆対話的な学び G-1 自分の考えをもてるような工夫や場面設定ができたか。 - 2 自分の考えの根拠理由の発言を促すことができたか。 H 子どもが他者(友だち・教員・先哲の考え方・本を通した作者等)の考え方を理解することができる手立てができたか。 I 学んだことを言語化できる場面が設定できたか。
	③ 単元の学習計画について知る。 主	◆深い学び J 自分の考えを深める手立てをすることができたか。 K 課題解決を行うための探求する場面を設定できたか。 L 学んだ情報を基に、自分の考えを広げるように導くことができたか。
	④ ワークシートを活用しながら学習を進める。 対・深	◆ICTを使った授業展開 M ICTを使うことで題材に興味関心をもたせることができたか。 N ICTを使うことで課題をわかりやすく捉える手立てができたか。 O ICTを使うことで理解の定着を図ることができたか。
	⑤ ワークシートにまとめる。 深	
	⑥ まとめ ・チームで決めたこと、自分で決めたことを発表する。 主・深 ・本時で学習したことを振り返る。	

授業後の評価（表 23）では、中 1 男子は、「数秒会話できた」、中 2 男子は「自分のことが話せなかった」とあった。小 5 女子も会話については「できた」と評価しており、目標を示し、活動をチームで行うよう設定したことにより目標を意識していたことがうかがえる。

表 23 事前学習の自己評価（児童生徒）

今日のがんばりどころ	小 5 女子	中 1 男子	中 2 男子
① 自分のことを話したりこれまで行ったところを伝え合う	できた 自分のことを話したり、これまで行ったことを伝えれた	まあまあ 数秒会話ができた	まあまあ 自分のことを話せなかった
② 友達や先生の意見を聞いて参考にしてどこに行って何をしたいか決める	まあまあ ちゃんと話ができなかった	まあまあ 先生の意見を参考にできた	できた 決めれたから
③ イオンでは、どの店で何を買いたいか決める（1000円以内）	できた 二人の意見を聞きながら決めれた	もう少し 自分で決めれなかった	できた 決めれたから

【マジックショー】

小学生 1 名、中学生 2 名が各自病室から参加した。タブレットを操作して、タイミングに合わせて拍手をしたり、手を挙げたりするなど巧みにリアクションができていた。マジシャンの方も分身ロボットに話しかけてくださったので、それに会話で答えるような場面もあった。



図8 マジックショー

今日のがんばりどころ	できたこと	どうしてできたか
①自分のことを話したり これまで行ったところを伝え合う	できた	自分のことを話したり、これまで行ったところを伝えられた。
②友達や先生の意見を聞いて参考にしたりどこに行き何をしていきたいかを決める	まあまあ	ちゃんと言ってもらえた。
③イオンでは、どのお店で何を買いたいか決める(1000円以内)	できた	二人の意見をききながら買えた。

図9 小5女子児童の自己評価

【居住地校交流】

小5女子は前籍校で道徳の学習に参加した。分身ロボットの首はある程度動くものの、設置位置が固定されると見える範囲が限定される。また、タブレットの画面がぼやけるなどの見えにくさもあったが、久しぶりに地元の学校で自分のクラスの授業を受けることができた。休み時間には、友達と交流し互いにうれしそうに会話をしていた。

中1男子も地元の学校で、自分のクラスの学習に参加した。クラスの友達は、分身ロボットの登場に歓声をあげ、名前を呼んだり、「元気か」と話しかけたりするなど大いに盛り上がっていた。班に分かれてイラストを完成させるゲームに参加したが、絵がしっかり見えているか、どう思うかなど病院にいる生徒を気遣う様子も見られた。



図10 前籍校(小学校)と交流 道徳の授業

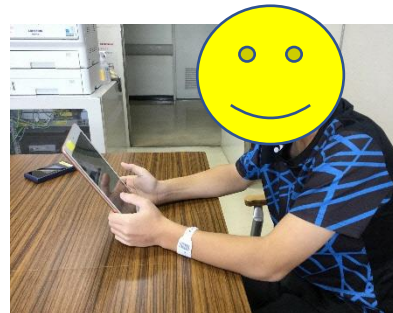


図11 前籍校(中学校)と交流 校長先生にあいさつ

【大学の授業参観】

中2男子からは、本分校が高知大学医学部の中にあるため、大学生の授業の様子を見たいとの希望があった。看護学科の先生に協力してもらい、講義棟内や教室内を案内していただいた。将来、大学に行きたいという希望もあり、入ることのできない構内や学生の授業風景を見て大学生活についてイメージを膨らませることができていた。

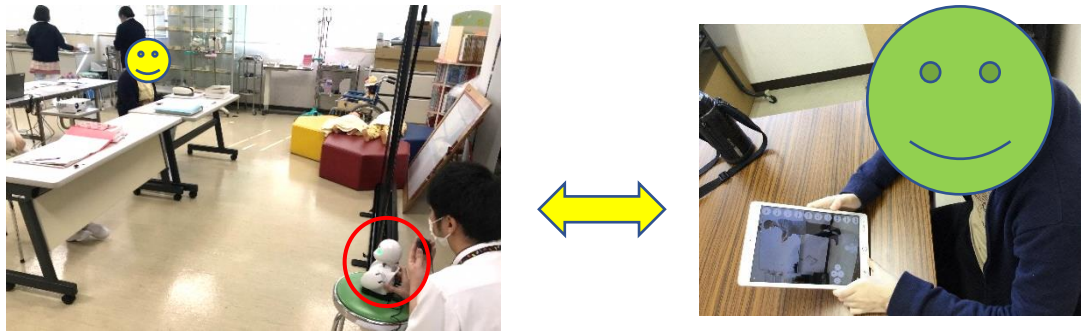


図 12 大学生の授業を参観

【ショッピングモールでの買い物】

分身ロボットを提供してくださった会社の方が、1台につき、2名付き添ってくださり買い物に出かけることができた。会社の方とは初対面であったが、上手にエスコートしてくださったことや、自分の決めた欲しい物を手に入れたという気持ちの高まり、感染予防のために外出禁止という制限があり、ましてや人ごみの中ショッピングなど全くできない状況で過ごしていたこともあり、児童生徒は自己紹介や買い物で積極的に会話できていた。買い物では、欲しい品物を伝えるために、「見えない、もうちょっと右行って」、「他のもの見たい」、「おまけして」など自分からどんどん話をする場面も見られた。分身ロボットの操作にも慣れてきたこともあり、事前学習の時に比べ積極的に会話する様子が見られた。

3) まとめ

2週間という短い期間ではあったが、事前学習から買い物まで、児童生徒の希望をかなえることができた。また、分身ロボットで自分の行きたい場所に行き、活動できたことは、児童生徒にとって貴重な経験となった。児童生徒の感想（表 24）からも、友達に会えたことや、買い物で欲しい物が買えたこと、買ったものを家族に贈り喜んでもらったことなど、入院生活の中ではできない経験ができたことで喜んでいる様子が見られた。

表 24 全学習終了後の児童生徒の感想

	マジックショー	一人体験	買い物	感想
小5女子	普段は見れないものが見れて楽しかった。	「小学校で交流」友達と交流できてうれしかった。みんなの顔が見れて元気がもたらえた。	スペースで腕時計を買った。白の腕時計がずっとほしかった物でもあるからうれしかった。	学校の友達と会ってお話ができるとは思っていなかったのうれしかったです。イオンのスペースではずっとほしかった腕時計が変えてとてもハッピーな気分でした。
中1男子	参加せず	「中学校で交流」久しぶりに友達の顔や声が聞けてよかった。友達と協力して楽しいことをいろいろできてよかった。	家族がクッキーを喜んで食べてくれた。分身ロボットを持って行ってくれた人という話した。	学校に分身ロボットを持って行った時は、みんなから「すごくかわいい」とかびっくりされて注目され、でも画面が少し止まったり、少し見えにくかったりしてます。話したりする分には簡単に使えました。

中 2 男 子	布がくっついた り離れたりする マジックがどう いう仕組みなの か考えても全く 分からなかった。	「大学の授業体験」 画面が少しぼやける けど表情や動きは分 かる。学生さんは何人 かで1つのグループ を作って勉強してい てけっこう楽しそう な授業内容だった。	遠くから買い物でき るから便利な時代にな ったなと思った。	おかげ様で遠くから買い 物をするという貴重な体 験ができました。少しぼ やけるけど十分見えまし た。次は自分の足でイオ ンに行きたいです。
------------------	---	---	-------------------------------------	--

事前学習は児童生徒が相手に対して自分の知っていることや意見を伝えたり、話し合ったりするように、普段行っている個別学習ではなく集団学習として行ったが、会話がはずむ様子は見られなかった。児童生徒は病室でも自分の部屋で過ごしており、またコロナ禍においてフリースペースを使用できない状況もあり、全員がほぼ初顔合わせといった状況であった。活発に意見を交わすことを想定していたが、当然恥ずかしさや何を話したらよいのかと躊躇することもある。入院生活の中であるということを前提に無理のないように学習場面を設定する必要があると考える。

分身ロボットを使って様々な学習を行ったが、その中で友達など親しい間柄の人には自分の姿を見せたいという希望もあった。一方で会社の人など知らない人が相手となる場合には自分の姿やニックネームで呼んでもらったことで恥ずかしさが軽減された。一長一短あるが、できないことを実現できた今回の学習から、分身ロボットは学習支援の一手段としては有効であったと考える。今後も大いに活用したいところであるが、分身ロボットは高額なだけに、すぐに購入はできない。

今後は、本研究での遠隔授業についての実績を生かし、これまでも活用してきたテレビ会議システムを日常的に活用し、児童生徒の実態に応じた最適な活用方法を追求したい。

4) 「チェックシート」と「学びのシート」活用について

本授業では、「チェックシート」と「学びのシート」の項目を活用しながら、児童生徒が授業の目標に応じた評価ができるように評価表を準備した。また、評価理由の項目も付けたことから、児童生徒が選択した評価基準の根拠についても理解することができた。このことから、授業に合わせて具体的な評価項目にし、評価理由についても記入できるようにしたい。

しかしながら、授業時間は限られているため、評価に割く時間が多くなってしまうことには配慮が必要である。

授業評価シートの活用については、評価が授業改善につながるよう、より妥当な評価方法や内容を求めて、授業評価の内容、やり方について見直し、改善する必要があると考える。

4 まとめ

本研究では、児童生徒と教師が「チェックシート」と「学びのシート」を活用することで、授業者は評価結果を授業改善につなげ、評価の観点を意識した授業づくりを展開することにより、「主体的・対話的で深い学び」を実現できることを目的として取り組んだ。報告した実践例では、2つのシートの評価を比較し、その結果から取組の成果と改善点及び課題が明らかになった。

取組の成果としては、重点を置く観点の項目を明確して、授業に臨むようにしたという教師の取り組む姿勢が見られた。手立ての工夫としては、学習目標の分かりやすい提示方法や発問の具体的な設定、ワークシートの作成や提示物での板書の工夫、プロジェクターを使用した説明や iPad のアプリの活用などを行った。こうした具体的な手立てができた評価項目について、児童生徒の評価は「できた」「よくできた」が多く見られた。また、事前の自己評価授業の評価から明らかになった修正箇所「もう少し」を、次の授業(研究授業)で改善したことで、児童生徒の評価が「できた」「よくできた」になったことという報告があった。ただ、評価結果にずれがあった場合、そのずれを確認するにとどまった事例もあった。したがって、2つのシートの評価結果を比較することで、手立ての効果が見られた部分やより改善できた部分が確認されたが、評価のずれの見極めが十分できていないことも分かった。さらに、実践例の報告から、他に、様々な課題や修正点、問題提起がされた。

その課題等は次のような内容である。

- ①児童生徒の評価の判断の理由が書かれていない。(児童生徒の判断の根拠がわからない。)
- ②児童生徒が評価の項目をどれだけ正確に把握しているか、その項目の具体的な説明が「学びのシート」に書かれていない部分がある。
- ③学習目標に合った評価の項目がない。
- ④2つのシートの評価に差があった場合、その差をどのように捉えていくか。
- ⑤2つのシートの項目が連動していない部分がある。
- ⑥観点の項目を選択する際に、多めに選択しがちになり、評価があいまいになっているのではないか。
- ⑦教師間の評価にばらつきがあった。各教科によって観点を捉え方が違うのではないか。
- ⑧「チェックシート」と「学びのシート」は、あくまでも授業改善のための一つのツールであると押さえ、その評価のみに捉われすぎないようにしていくこと。

以上の内容から、改善としては、①②③④については、児童生徒が選択した評価の根拠について記入できる欄を設ける。また、評価の項目については、「主体的、対話的で深い学び」の観点をおえたうえで、授業の目標と授業内容に合わせたより具体的な評価項目にする。⑤についても、各項目がより連動するような文章表現にする。⑥については、特に、単元や題材のまとまりの中で指導目標と指導内容をおさえ、観点の項目に関連付けながら整理して項目を選択してきた。学習過程分析表に示されたように、一つの活動が複数の項目に当てはまることは多い。その中で、評価があいまいにならないように、主となる活動をより明確にし、評価項目を選択しすぎず、焦点化していくことが必要になると考える。⑦については、中学部の教科の専門性から、授業者の意図や工夫も伝わりにくい部分があるのではという意見があった。各教科の特性を十分に伝え合い、共通理解を進めることが大切と考える。⑧については、2つのシートの妥当性や有効性についてしっかり把握した

うえで、評価に一喜一憂することの是非、教師の授業改善に取り組む姿勢や、今日まで培ったスキルの総合的な力量まで評価するものではないこと等、授業評価シートそのものから見えてくる問題点を含んだ重要な見方と思われる。この見方を心に留めて授業評価シートの活用に臨むことが大切と考える。

以上のように、改善を進めていくためには、教師間で共通認識をもち、教科の特性を尊重しながら進めていくことができれば、今後、この授業評価シートは授業づくりの有効なツールとして活用できるものになると考える。

5 おわりに

昨年度より、「ICTを活用した『主体的・対話的で深い学び』」の研究として、「チェックシート」と「学びのシート」を活用した授業づくりに取り組み、2年目を終えた。報告した実践例からは、「4 まとめ」で述べたように、授業評価シートにはまだまだ課題が多いことも明らかになった。今後は、その課題に一つ一つに修正を加えながら、個々の実践で日々有効に生かされるように、本取組をつなげていきたいと考える。

また、ICTの活用については、「主体的・対話的で深い学び」と同列の観点に位置づけ、各実践において様々な機器やアプリケーションを活用することで、児童生徒の興味関心を高めたり、定着を図るツールとなったりと効果的な手立てとして授業づくりを行うことができた。今後は、より様々なICTを活用するためにも、各教師のスキルの向上が必須となると思われる。そのために、今以上に情報収集の意識を高め、必要な研修を行い、教師間で情報共有することが大切と考える。

今後も、本研究テーマの目指す児童生徒の姿を今一度捉え直し、その上で、「主体的、対話的で深い学び」の授業づくりについて、研修資料等を利用して適宜、教師間で共通理解を図ることが大切と考える。さらに、昨年度までに取り組んできた研究を振り返り、病院や前籍校との連携、ICTの活用、学習空白への対応など、病院内にある本分校の役割を改めて確認し合うことも重要である。そして、治療を行いながら学習に臨む児童生徒の体調面、心理面に配慮しながら、児童生徒の一人一人の課題に向き合い、学習保障と前籍校への円滑な復学を目指す中で、資質・能力を育成していくための研究がどうあるべきかが求められると考える。

謝辞

参考資料として、日高特別支援学校の「学習過程分析表」を本分校用に一部変更し、本研究の取組に活用させていただきました。本研究にご協力いただき深く感謝申し上げます。